

# よかところ通信

2015年7月号

O2Farm【オーツーファーム】 大津耕太&愛梨

〒869-1501 熊本県阿蘇郡南阿蘇村両井 587

Tel&Fax : 0967-62-3730

E-mail: [mail@o2farm.net](mailto:mail@o2farm.net)

O2FarmWeb : [www.o2farm.net](http://www.o2farm.net)

南阿蘇では長かった梅雨がようやく明けたかな、と思いきや、台風の影響でぐずついた天気が続いていますが、皆さまお変わりありませんでしょうか。昨日は久しぶりの快晴で、どこまでも青々とした景色が広がり、思わず深呼吸をしました。子供たちも後少しで夏休み。我が家の賑やかな夏がまた始まります。



今年はアイガモを例年より早めに田んぼに放しました。農薬を使わないでお米を作るには、田植え後のできるだけ早い段階で雑草を抑えるのが重要なポイントで、要するに雑草よりイネの勢いが勝れば良い訳です。雑草を全て抑えることは薬を使わない限りはほぼ不可能なので、「イネが勝つ」状態を目指します。今年はそんな訳で、ネットを張り巡らせる作業を急ぎ、早めにアイガモを出陣させたところ、それだけの効果はあったのではないかと思います。田んぼをいったん干したいので、例年より早めに引き上げることにしました。



アイガモの一部は、隣町の知人にもご提供。大家族の貴重なタンパク源として毎年お譲りしていたのですが、中学生になった娘さんが命を頂くことに反対するようになったとのことで、去年の戦士たちも採卵用にまだ飼っているのだそう。アイガモの玉子はさっぱりしていて鶏の玉子よりも美味しい、知人。ずいぶん前に食べたことがありますが、それを聞いてまた食べてみたいと思いました。

「アイガモ」はアヒルとマガモを掛け合わせたいわばハイブリッド。飲食店で鴨南蛮などに使われるアイガモはアヒルの血が濃く、食用として育てられます。アイガモ農法のカモたちは、あまり体が大きくなると稲を倒してしまうので、マガモに近い掛け合わせ。ほとんど飛びませんが、田んぼから引き上げてすぐのものは、小柄な分、食べる部分も少なければ、味も何となくワイルドで、マズイわけではないですが、格別に美味しいわけでもなく…。何より今年は、世話係の私が出産を控えていて何十羽も育てることが難しそうなので、残りのカモたちは生まれた孵化場に引き取ってもらうことになりました。立派な体に育ってきているとは言え、つぶらな瞳が可愛らしいカモたちが田んぼからいなくなるのは寂しい感じでしたが、今年はいいい仕事をしてくれて、清々しい別れとなりました。



アイガモはイネ科が好きじゃない、という特性から、安心して田んぼに放しておけるわけなのですが、イネも食べない分、イネ科の雑草であるヒエもご丁寧に残してくれます。そんなわけで、ヒエを取るのは我々人間の仕事。通称「ヒエ取り」。都会の人に話すと、「冷え取り」と間違われ、



クーラーの効いた場所で過ごしている人の発想は違うなぁと笑っています。ちなみに、「除草」も「女装」と間違われることがあり、口頭で「今日はコウタがジョソウしてたんだよね」などと言おうものなら思わぬ誤解を生むことがあります(笑)。今年のコウタの他、1週間農業研修に来た研究者さんや、頼もしい研修生のエースケも「ジョソウ」を頑張ってくれました!

ジョソウができない私は、妊娠9か月の大きなお腹を抱えて産前最後の出張をしてきました。明治大学で講義をしたり、女性農業者による全国組織「NPO 法人田舎のヒロインズ」の理事会を開催したり、北海道で開かれた「女性が創るエネルギーと食とお金と地域の可能性」というシンポジウムに出席したり。出張と言っても1、2泊のことが多いのですが、今回は6日間の長期。義父母のサポートがあってこそではありましたが、子供たちも留守中、本当に自分のことだけでなく兄弟や家族のことも気にかけて助けてくれていたようで、「亭主元気で留守がいい」ならぬ「鬼嫁元気で留守がいい」。たまには母親がいないのも、結束が固まったり、子供が自立したりするにはいいようです。



帰宅直後に15年ぶりくらいに会う留学仲間が家族で遊びに来てくれました。我が家に来るお客さんをいちいち紹介していたらキリがないので滅多にしません。今回は彼女から聞いた話が面白かったのでネタにします。1つめは法律。ドイツでは、最新の法律によると大人が同伴していれば14歳からお店でもビールが飲めるとか。さすがビールの国ですねえ。もう1つは教育。ドイツの学校は中学校まで基本的にお昼前には終わるそう。宿題こそあるものの、部活や課外授業はないので、子供たちは家でお昼ごはんを食べた後、自由に遊んだり、地域のクラブチームで活動したりするそうです。去年から部活動が始まった我が家の4年生の双子は、朝7時半前には登校し、帰宅は18時半すぎ。早めに帰ってくるのは週1回で、土日には学校行事や試合があることも。その上宿題まであって、いったいいつ遊ぶんだろう?と不憫に思っていたところだったので、ドイツの話には驚きました。家庭の負担が多いので、それなりに問題もあるのかもしれませんが、子供たちにとっては、「自由な時間」があるのは大事だなあとと思います。もうすぐ夏休み。たっぷり遊んで、しっかり阿蘇の魅力を満喫して欲しいです。



私エリもいよいよ臨月に入り、いつ生まれてもおかしくない状況ではありますが、運動がてらせと田んぼを回ってイネの成長を見守りたいと思います。出産まであと1か月、稲刈りまであと2か月。猛暑や台風の被害がないことを祈るばかりです。どうぞ皆さまも、お元気で楽しい夏をお過ごしください。

